

環境経営レポート2021年度版

2021.05.01～2022.04.30

ver.1.0



発行日2022年6月17日

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

目次

1. 会社概要・対象範囲	1	③ 廃棄物の排出量	12
2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり	2	④ 環境対応商品の売上高	13
3. 環境経営方針	3	6. グリーン購入について	14
4. 環境経営組織図	4	7. 環境啓発活動	15～16
5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧	5	8. 環境関連法規	17
①- a 電力使用量	6～8	9. 中期環境経営目標設定（2022年度～2024年度）	18
①- b ガソリン使用量	9	10. 代表者の総括	19
①- c CO2排出量	10		
② 水使用量	11		

1. 会社概要・対象範囲

■会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆従業員数 23名（就業役員を含む）
- ◆事業内容 文具・紙製品の製造卸、小売業、賃貸業
- ◆事業所
 - 本社・小売事業部 東京都港区麻布十番1-5-25
床面積：173.73㎡
 - 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
床面積：301.69㎡
- ◆環境管理責任者 業務部主任 湯本祥子

◆事業規模

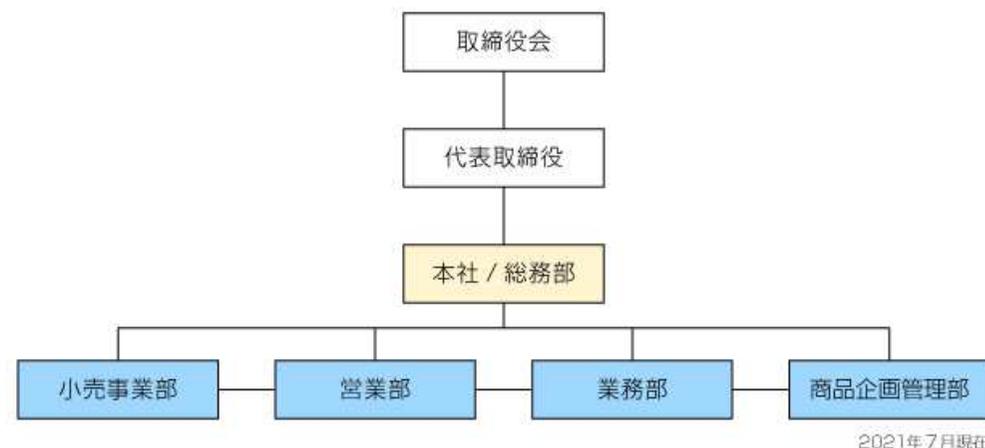
	2019年度	2020年度	2021年度
売上高(万円)	76,000	74,800	72,900

決算期末（6月）売上高

■対象範囲

- ①対象とする組織：全組織
- ②対象とする人員：全従業員
- ③対象とする事業活動：全事業活動

■組織図



◆主力商品



プリンタ用紙



祝儀・その他文具

2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり



目標4〔質の高い教育をみんなに〕

- 子どもたちへの教育環境・備品等の支援
(公財オイスカ こどもの森計画、WWF ソーラーライト
チャレンジ) →P13, 15, 16



目標14〔海の豊かさを守ろう〕

- サンゴ礁保護支援 (WWF 南西諸島プロジェクト)
- 海洋プラスチック問題への取組 (東京ベイ・クリーン
アップ大作戦) →P13, 15, 16



目標7〔エネルギーをみんなにそしてクリーンに〕

- クリーンエネルギー (太陽光発電) の利用
- 化石燃料に頼ったエネルギー使用を削減する
→P6, 7, 8, 9



目標15〔陸の豊かさも守ろう〕

- グリーン購入法適合品の積極的利用
- 希少動物保護支援 (WWF 南西諸島プロジェクト)
- 地球の緑化活動支援 (公財オイスカ こどもの森計画)
→P13, 14, 15, 16



目標12〔つくる責任つかう責任〕

- 廃棄物の分別・再利用を含めた削減
- 持続可能な製品の製造・販売に寄与する
→P12, 13



目標17〔パートナーシップで目標を達成しよう〕

- 公財オイスカ、WWFジャパンとのパートナーシップ
→P15, 16



目標13〔気候変動に具体的な対策を〕

- 地球温暖化対策としてCo2削減の取り組み
→P6, 7, 8, 9, 10



3. 環境経営方針

株式会社長門屋商店は、私たちの未来のため、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現と継続的な環境負荷の低減を推進します。

1. 事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、SDGsを見据えた社会的貢献を目指します。
2. 環境関連の法令・規則を遵守すると共に、ステークホルダーと協力的な関係を確立します。
3. 商品の製造から販売に至るまで『地球にやさしい』を追求し、環境負荷の低減に努め、以下を実施します。
 - a. 環境負荷の小さい主原料や副資材を積極的に調達し、製造・流通過程においても最大限の効率化を図ります。
 - b. 間接支援型環境商品の販売を通じて売上の一部を森林保護や海洋保全団体等の環境保護活動へ役立てます。
 - c. 小売事業においては、レジ袋削減をはじめとした『脱プラスチック』に取り組み、これを推進します。
4. 限りある資源の保全を目的に省エネ・省ゴミ活動を普遍的に継続し、企業価値及び文化的水準の向上へと繋がります。
5. 環境経営における目標・計画・実施状況については、全従業員に周知徹底すると共に、「環境経営レポート」として公表します。

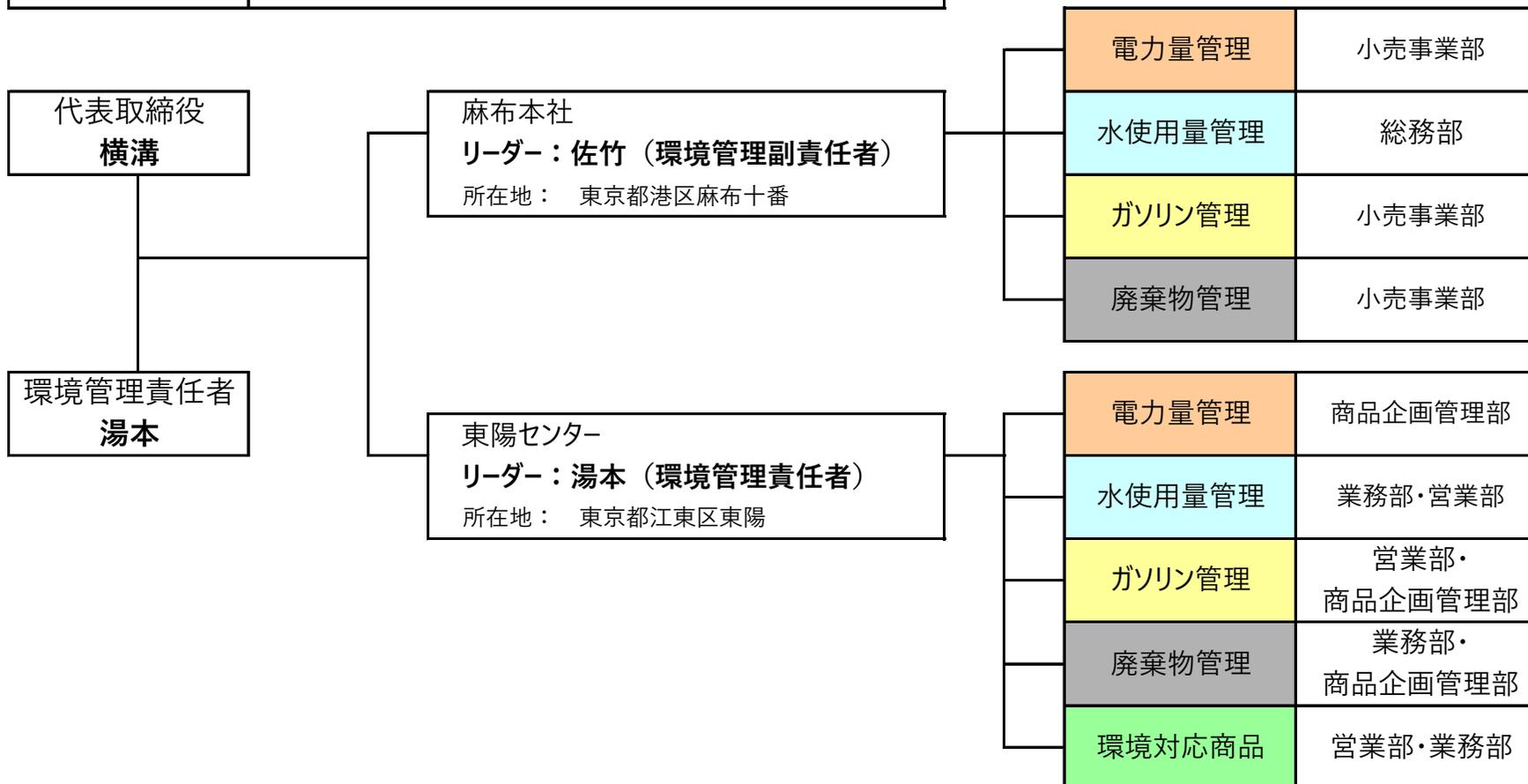
改訂：2018年5月1日
制定：2006年11月01日

株式会社 長門屋商店
代表取締役 横溝純一

4. 環境経営組織図

〔役割・責任・権限〕

代表取締役	環境経営方針の策定、環境管理責任者の指名、必要な資源を準備、目標値と実行計画の作成・是正指示、課題とチャンスを確認にする
環境管理責任者	環境経営システムの維持、環境経営レポートの作成、各部署の運用状況の把握、定期ミーティングの開催
各部署担当	月次の数値の記録、定期ミーティングにおいて運用状況の報告



5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧

実施事項	2020年度実績	2021年度実績	2021年度目標	目標達成状況	
①- a 電力使用量	49,679kWh	49,716kWh 前年対比 +0.1%	49,200kWh (対2020年度-0.9%)	目標対比 +1.0%	△
①- b ガソリン使用量	5,446リットル	5,316リットル 前年対比 -2.4%	5,390リットル (対2020年度-1%)	目標対比 -1.4%	◎
①- c CO2 排出量※	33,922kg-CO2	32,552kg-CO2 前年対比 -4.0%	33,550kg-CO2 (対2020年度-1%)	目標対比 -3.0%	◎
② 水使用量	151m3	148m3 前年対比 -2.0%	150m3 (対2020年度-0.6%)	目標対比 -1.3%	◎
③- a 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	483.5kg	502.2kg 前年対比 +3.9%	476.0kg (対2020年度-1.5%)	目標対比 +5.5%	×
③- b 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3396.5kg	3510.1kg 前年対比 +3.3%	3350.0kg (対2020年度-1.3%)	目標対比 +4.8%	×
④ 環境対応商品の売上高	20,777万円	22,394万円 前年対比 +7.8%	21,100万円 (対2020年度1.5%)	目標対比 +6.1%	◎

※CO2排出量使用排出係数について、購入電力は0.000447 (東京電力エナジーパートナー) または0.000543 (楽天エナジー) [単位: t-CO2/kWh]、ガソリンは2.32166 [単位: kg-CO2/l]を使用

◎は設定目標達成 ○は設定目標に及ばずも前年実績より良化 △は前年実績並 ×は目標、前年実績ともクリアできず

環境経営目標実施要項①-a 電力使用量（その1/実績一覧）

SDGs 該当項目 ⇒



本社ビル	2019年度	2020年度	2021年度
購入電力量(1)	28,763kWh	28,325kWh	27,941kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	885kWh	814kWh	716kWh
実質電力使用量(1)+(2)	29,648kWh	29,139kWh	28,657kWh
前年比		98.28%	98.35%

東陽センター	2019年度	2020年度	2021年度
購入電力量(1)	13,792kWh	15,606kWh	14,217kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	6,232kWh	4,934kWh	6,842kWh
実質電力使用量(1)+(2)	20,024kWh	20,540kWh	21,059kWh
前年比		102.58%	102.53%

全社合計	2019年度	2020年度	2021年度
購入電力量(1)	42,555kWh	43,931kWh	42,158kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	7,117kWh	5,748kWh	7,558kWh
実質電力使用量(1)+(2)	49,672kWh	49,679kWh	49,716kWh
前年比		100.01%	100.07%



前年対比 +0.07%

※太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

環境経営目標実施要項①-a 電力使用量（その2/取組内容）

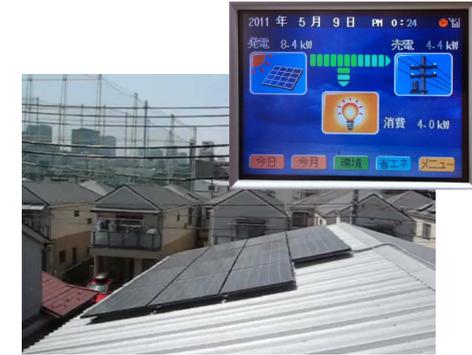
SDGs 該当項目 ⇒



↑ LED電球およびLED蛍光灯



本社 ソーラー設備 9.8kw
 今期の年間発電量：8214kWh
 2012年4月からの累計：101525kWh



東陽センター ソーラー設備 10kw
 今期の年間発電量：10359kWh
 2010年8月からの累計：130397kWh



↑ 温度管理へのさまざまな工夫

■継続取組

- エアコンとサーキュレータ・扇風機の併用等
- 事務所にすだれの設置
- 温度計を使用して室温管理
- 個別の消灯
- OAタップによる待機電流OFF

●月次電力使用量（2021年5月～2022年4月）

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	年間
麻布本社	前年実績	2251	1541	1615	2626	1931	2119	1942	1930	3167	3837	3335	2846	29140
	当年実績	1726	1860	1934	2061	2416	2329	1928	1807	2799	3516	3394	2886	28656
東陽センター	前年実績	993	1305	1622	2266	2438	1279	1122	1731	2047	2370	1885	1482	20540
	当年実績	957	1470	2115	2004	2143	1545	1223	1724	1912	2446	1845	1675	21059
合計	前年実績	3244	2846	3237	4892	4369	3398	3064	3661	5214	6207	5220	4328	49680
	当年実績	2683	3330	4049	4065	4559	3874	3151	3531	4711	5962	5239	4561	49715
	前年比	82.71%	117.01%	125.08%	83.09%	104.35%	114.01%	102.84%	96.45%	90.35%	96.05%	100.36%	105.38%	100.07%

（単位：kWh）

環境経営目標実施要項①-a 電力使用量（その3/評価・次年度へ） SDGs 該当項目⇒



2018/5導入 新型LED照明(全9台)



2018/5完成 新作業室



2018/5導入 新作業室用エアコン

■今年度の評価

〔本社ビル〕

前年比1.4%の減となりました。継続取組として、温暖な時期には窓を開放しエアコンの使用をなるべく控えておりますが、結果電力使用量を抑えられております。今後もできる工夫を続けて参ります。

〔東陽センター〕

前年比2.5%の増加となりました。人員の増加とエアコン使用時での窓開けの影響で電力使用量増加となりました。エアコンフィルターのこまめな清掃や、照明器具の定期的な点検を行い、少しでもエネルギー負担の少ない運用を心がけて参ります。

■次年度へ

当社の設備に関して、太陽光発電の運用も10年を超え不具合が出始めているので、エネルギーを減少させないよう定期的なチェックのルーティンを加えることが必要となって参りました。

電力使用に関しては空調時にこまめな換気を行うことが日常となり電力使用量に確実に上乘せられる中、電力料金も大幅に上昇しコスト的にも大変厳しい環境になっております。そのような中、使用していない場所の照明を切る等一つ一つの小さな行動が節約意識の引き上げにつながり、目標達成に近づくと考えております。これまでのエコアクション活動で積み上げたものを生かし、引き続き取り組んで参ります。

環境経営目標実施要項①- b ガソリン使用量

SDGs 該当項目 ⇒



出発前の車両



低燃費運転の心がけを車両内に表示



発送前商品

⇒ 運送会社の発送を積極的に活用

	2019年度	2020年度	2021年度
ガソリン使用量	5,061L	5,446L	5,316L
前年比		107.61%	97.61%

前年対比 -2.4%

【参考】全車の年間走行距離と一台あたりの燃費

	2019年度	2020年度	2021年度
全車合計走行距離	55911km	60869km	60150km
前年比		108.87%	98.82%
一台あたり燃費	11.04km/L	11.17km/L	11.31km/L
前年比		101.18%	101.25%

■新規取組

- 燃料費節約とCO2削減を目指すべく、小売事業部でガソリンバイクに代わり、電動バイク2台を新規導入しました。
- 東陽センターの車両1台を低燃費のアイドリングストップ車に交換しました。

■評価・次年度へ

低燃費の車両への置き換えもあり、使用量は昨年比2.4%減少しました。運送会社への発送にシフトする取組も継続して行っております。次年度以降も引き続き低燃費運転を心がけるよう、進めて参ります。

環境経営目標実施要項①- c CO2排出量

SDGs 該当項目 ⇒



CO2排出係数		2021年度使用数値
購入電力	東京電力エナジーパートナー使用分	0.000447 t-CO2/kWh
	楽天エナジー使用分 (東陽センター-2019年10月分より)	0.000543 t-CO2/kWh
ガソリン	EA21ガイドライン	2.32166 kg-CO2/l

※2021年度の購入電力の係数は2022年1月7日公表値の実排出係数に拠ります。

全社合計		2019年度	2020年度	2021年度
本社ビル	排出CO2	13,461kg-CO2	12,944kg-CO2	12,490kg-CO2
購入電力	購入量	28,763kWh	28,325kWh	27,941kWh
東陽センター	排出CO2	6,818kg-CO2	8,334kg-CO2	7,720kg-CO2
購入電力	購入量	13,792kWh	15,606kWh	14,217kWh
全社ガソリン	排出CO2	11,750kg-CO2	12,644kg-CO2	12,342kg-CO2
使用量	使用量	5,061L	5,446L	5,316L
排出CO2総量		32,029kg-CO2	33,922kg-CO2	32,552kg-CO2
前年比			105.91%	95.96%

【参考】

	2019年度	2020年度	2021年度
排出CO2原単位 (売上高百万円当り)	42.14 kg-CO2/万円	45.35 kg-CO2/万円	44.65 kg-CO2/万円
前年比		107.61%	98.46%

オフセット計算	2021年度
本社ビル 総発電量	8,214kWh
東陽センター 総発電量	10,359kWh
発電量合計	18,573kWh

※計測端末の値を引用

購入電力での排出量
⇒ 9,297kg-CO2 相当

購入分より差引 ↓

太陽光発電によるオフセット後の排出量 23,255kg-CO2

※なお、昨年のオフセット後の排出量は 24,214kg-CO2でした。
(前年比約4.0%減)

前年対比 -4.04%

環境経営目標実施要項② 水使用量



本社ビル	2019年度	2020年度	2021年度
上下水道使用量	51m3	47m3	50m3
前年比		92.16%	106.38%

東陽センター	2019年度	2020年度	2021年度
上下水道使用量	114m3	104m3	98m3
前年比		91.23%	94.23%

全社合計	2019年度	2020年度	2021年度
上下水道使用量	165m3	151m3	148m3
前年比		91.52%	98.01%

■継続取組

- 節水コマを取り付け流量を絞り、ムダを省くよう取り組んでいます。
- 節水の意識付けとして、節水を促す掲示物を貼付しています。

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕
 昨年比約6.4%増加してしまいましたが、営業日と人員増の影響による
 と考えられます。一層の節水意識を持ち取り組んで参ります。

〔東陽センター〕
 人員の増加もある中で昨年比約5.7%減少しました。次年度もより一層
 の意識をもって節水に取り組めます。

前年対比 -2.0%

環境経営目標実施要項③ 廃棄物の排出量

SDGs 該当項目 ⇒



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 3種の分別ゴミ箱を用意しています。

③-a 可燃ごみ（熱回収）

熱回収	2019年度	2020年度	2021年度
本社ビル	28.3kg	27.4kg	27.7kg
東陽センター	404.7kg	456.1kg	474.5kg
合計	433.0kg	483.5kg	502.2kg
前年比		111.66%	103.87%

前年対比 **+3.9%**

③-b プラ・古紙・ダンボール（再生）

再生	2019年度	2020年度	2021年度
本社ビル	549.3kg	522.7kg	894.0kg
東陽センター	3125.7kg	2873.8kg	2616.1kg
合計	3675.0kg	3396.5kg	3510.1kg
前年比		92.42%	103.34%

前年対比 **+3.3%**

- 継続取組
- 合い紙の社内ドキュメントへ活用 ● ダンボールの再利用
 - 古紙やプラの分別回収 ● ペーパーレスの促進
 - 使用済みテープの巻き芯のリサイクル ● ペットボトルとキャップの分別収集

■ 評価・次年度へ

〔本社ビル〕
熱回収については前年並でした。再生分については古い書類や不要なカタログ等を一齐に処分した結果、前年比1.7倍と大幅に増加してしまいました。次年度の対策として基本的な取り組みに加え、カタログは必要分を把握して仕入れ、チラシなどはお客様へ配り切り、什器等も不必要にもらわないよう実施し削減につなげて参ります。

〔東陽センター〕
熱回収については前年比約4%の増加となりました。要因としては11月に大規模な除草作業をした影響が大きいですが、可燃物の廃棄量も実感として増加しています。次年度の対策として、ミックスペーパーのゴミ箱を可燃物の隣に並べ替え、何でも可燃物として廃棄しないよう誘導します。またゴミ箱への表示も「入れてはいけないもの」を追加してみます。再生についてはクッション材やダンボール等資源の再利用を継続している効果もあり、昨年比約9%減を達成できました。引き続きの取り組みを進めて参ります。

環境経営目標実施要項④ 環境対応商品の売上高

SDGs 該当項目⇒



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している「カラーペーパー」シリーズ



グリーン購入法適合用紙「ホワイトペーパー-R」シリーズ



売上の一部をWWFジャパンの南西諸島保全へ寄付している「美彩紙」シリーズ

- 対象商品 (下記いずれが含まれているもの)
- ①売上の一部を環境保全団体に寄付している。
 - ②原料に廃材や再生材を使用している。
 - ③非木材原料を使用している。

■評価・次年度へ
 前年比約7.8%増となりましたが、緊急事態宣言が明けて企業の経済活動が軌道に乗ってきた影響であると考えられます。次年度以降は環境対応商品の販売傾向などを精査しつつ、実施している環境活動の再度の告知や、キャンペーンの実施などを計画し、進めて参ります。

	2019年度	2020年度	2021年度
環境対応商品	24,810万円	20,777万円	22,394万円
前年比		83.74%	107.78%

当社基準による自社ブランドでの売上高です。

前年対比 7.78%

6. グリーン購入について

SDGs 該当項目 ⇒



♣グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりませんが、以下の通り意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

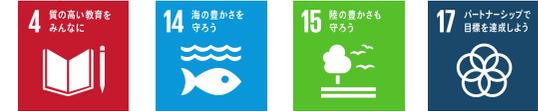
■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



7. 環境啓発活動 (1)

SDGs 該当項目 ⇒



－WWF「南西諸島プロジェクト」支援－

WWFジャパンが進める「南西諸島プロジェクト」（南西諸島エコリージョン）は、鹿児島県・沖縄県の島部である南西諸島の生態系保全を目的とした取り組みです。以前取り組んでいたWWF「しらほサンゴ村」支援に引き続き、「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。

(2021年度実績：425,834円)



NANSEIちゃん

特別天然記念物「アマミノクロウサギ」と沖縄近海の「アオサンゴ」をモチーフとした、弊社のオリジナルシンボルマーク・通称NANSEIちゃんです。「OAマルチケント紙 美彩紙」シリーズの商品パッケージに表記しております。



－エコキャップ活動－

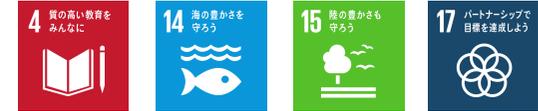


飲み終わったペットボトルのキャップを回収し、再生プラスチックの原料に換金する活動に参加しています。換金分は途上国のこどもたちへのワクチン支援として活用されます。



今期は23kg（約9,890個）を提供し、ワクチン5.8本相当となりました。





－オイスカ「子供の森」計画支援－

公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画は、こどもたち自身が学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという森づくり運動です。寄付金の一部は学用品や学校施設への教育支援としても使われます。弊社カラーペーパーシリーズの売上の一部をこの計画に寄付しております。

(2021年度実績：373,922円)



－東京ベイ・クリーンアップ大作戦－

「東京港を泳げる海に！ハダシで歩ける砂浜に！」をスローガンに毎年3回、地球環境の保全と泳げる海をめざして、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団（Kissポート財団）が主催する東京都お台場海浜公園で行う清掃活動に、レジ袋廃止に伴う手提げ紙袋の売上を協賛金の形で支援しました。

8. 環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境への負荷の低減の取組 ■ 自動車公害対策（アイドリングストップ） 	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理 	○	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水銀を含む廃棄物に関する対応 	○	遵守
江東区清掃リサイクル条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業系一般廃棄物に関して 	○	遵守
港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業者の責務・減量義務等 	○	遵守
江東区環境基本条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第7条（事業者の責務）ほか 	○	遵守
容器包装リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■ 商品包装への識別マーク表示 ■ 上記の包装資材の再商品化義務 	○	遵守
家庭用品品質表示法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障子紙が該当 	○	遵守
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常使用の範囲 	○	遵守
労働安全衛生規則	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電動フォークリフトの法定検査および自主検査 	○	遵守
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自賠責・納税・走行ルール 	○	遵守
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ リース会社・販売会社に委託 	○	遵守
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払 	○	遵守
小型家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払 	○	遵守
資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用済みの事業系パソコンの排出 	○	遵守
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設置のパッケージエアコン等の簡易点検 	○	遵守

2022年6月現在

環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。

関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

9. 中期環境経営目標設定（2022年度～2024年度）

実施事項	2021年度実績	2022年度目標	3か年での中期目標
①- a 電力使用量	49,716kWh	49,500kWh 前年対比 -0.4%	2023年度 49,100kWh (対2021年度-1.2%) 2024年度 48,500kWh (対2021年度-2.4%)
①- b ガソリン使用量	5,316リットル	5,070リットル 前年対比 -4.6%	2023年度 5,020リットル (対2021年度-5.5%) 2024年度 4,970リットル (対2021年度-6.5%)
①- c CO2 排出量 (※)	32,552kg-CO2	32,100kg-CO2 前年対比 -1.4%	2023年度 31,800kg-CO2 (対2021年度-2.3%) 2024年度 31,500kg-CO2 (対2021年度-3.2%)
② 水使用量	148m3	147m3 前年対比 -0.7%	2023年度 146m3 (対2021年度-1.3%) 2024年度 145m3 (対2021年度-2%)
③- a 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	502.2kg	495.0kg 前年対比 -1.4%	2023年度 488.0kg (対2021年度-2.8%) 2024年度 480.0kg (対2021年度-4.4%)
③- b 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3510.1kg	3460.0kg 前年対比 -1.4%	2023年度 3410.0kg (対2021年度-2.8%) 2024年度 3360.0kg (対2021年度-4.2%)
④ 環境対応商品売上高	22,394万円	22,800万円 前年対比 +1.8%	2023年度 23,200万円 (対2021年度+3.5%) 2024年度 23,600万円 (対2021年度+5.3%)
⑤ 従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		

※CO2排出量使用排出係数について、購入電力は0.000447（東京電力エナジーパートナー）または0.000543（楽天エナジー）〔単位：t-CO2/kWh〕、ガソリンは2.32166〔単位：kg-CO2/l〕を使用

10. 代表者の総括

■代表者による総括と改善指示

【当該年度の総括】

パンデミックによる企業活動への影響は徐々にではありますが回復に向かいつつあるように感じています。しかしながら秩序を乱した世界情勢による産物なのか原材料価格やエネルギー・物流といった関連コストの高騰によって大変厳しい経営状況が続いております。

環境経営活動においては昨年度に「ガソリン使用量」が増加したことの改善策として、東陽センターでは営業車1台を低燃費アイドリングストップ車へ交換し、小売事業部では電動バイクを導入するなど、環境活動に重きを置き車両入れ替えを実施しました。結果、「ガソリン使用量」は減少し、環境経営目標としている「CO₂排出量」削減に対しても、一定の効果が表れたと捉えております。また、本社ビル（第三長門ビル）の外壁塗装工事の際、屋上の防水塗装に建築物への蓄熱を抑制する高反射塗料を使用し、空調エネルギーの削減と地球温暖化防止に寄与するよう努めました。

「電力使用量」については昨年に続きほぼ横ばいの結果となっております。若干増加傾向を示した要因については、徹底した感染症対策を行う中で、エアコン稼働時においても室内や店内での換気が当然のこととなった行動様式の変化に起因するものと推察されます。

売上の回復に苦勞する中ではありますが、「環境対応商品の売上高アップ」の項目においては、プラス成長を達成する結果が得られております。メーカーとして、今後増々注力していきたい分野ですので、更なる拡販と開発に力を注いで参ります。

【次年度の見直しや改善指示】

「環境経営方針」「環境経営活動計画」「環境経営」については、次年度も変更なく継続して参ります。また、体制も換えずに取り組んで参ります。

目標未達となった「廃棄物の排出量」の項目については、担当者へ原因の把握を行うことを求め、削減目標を見直すよう指示を行っております。

2022年6月15日
代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<https://www.nagatoya.com>